

原敬記念館
第71回
企画展

原敬と 司法省法学校の 同窓たち

令和8年9月12日土～11月23日月祝

原敬記念館小ホール企画展示コーナー

上:原敬(司法省法学校時代)
下:司法省法学校同窓会



開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)

※10/27(火)は臨時休館

入館料 一般 300円 (団体 240円)

高校生 200円 (団体 160円)

小・中学生 100円 (団体 80円)

盛岡市内の小中学生は無料/団体入館料は20人以上の団体に適用

主催 原敬記念館(所管:盛岡市教育委員会)
公益財団法人盛岡市文化振興事業団

共催 原敬を想う会

指定管理者:公益財団法人盛岡市文化振興事業団

原敬記念館

HARA-KEI MEMORIAL MUSEUM

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮4丁目38-25

TEL:019-636-1192 FAX:019-636-1185



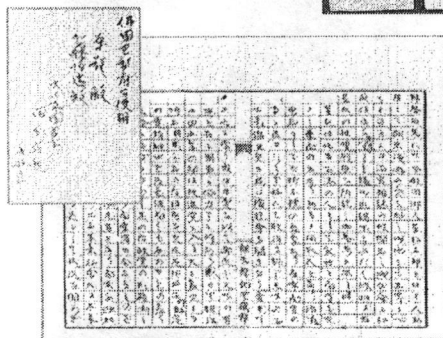
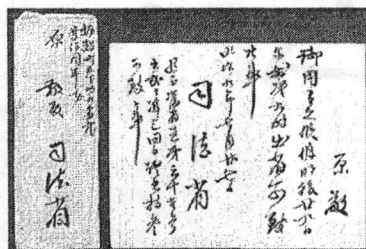
原敬記念館
第71回企画展

原敬と 司法省法学校の 同窓たち

令和8年9月12日(土)～11月23日(月・祝)



司法省通達書 学校入学通知
明治9年(1876)7月27日
入学試験に合格した原へ、
出省を指示した通知。



原敬・加藤恒忠宛
国分高胤書簡
明治19年(1886)
9月30日
パリ公使館勤務の原へ、
渡仏する知人を紹介し
た書簡。加藤(外交官)
と国分(漢詩人)は、と
もに同窓。



はら たかし
原 敬 | 1856～1921 |

安政3年(1856)2月9日、岩手郡本宮村(現盛岡市本宮)に生まれる。盛岡藩士・原直治の二男。藩校・作人館に学び上京、司法省法学校、郵便報知新聞記者等を経て外務省に入る。やがて政界へ進出、内務大臣等を経て第19代内閣総理大臣となった。日本初の本格的政党内閣を組織した「平民宰相」として支持を集めたが、大正10年(1921)11月4日、東京駅にて兇刃に倒れた。享年65歳。

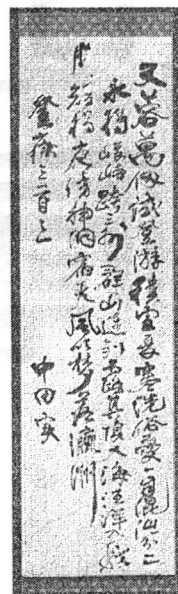
原敬は明治9年(1876)20歳で司法省法学校(現東京大学法学部)に入学しました。同校は司法官を養成する8年制の官費の学校でしたが、原は3年目に寮の食事の改善を訴える学生運動に関わり、放校処分となります。原は他の退学者たちと励まし合い、自立の道を模索して新聞記者となり、やがて官僚、政治家への道を歩んでいきました。

本展では、原の司法省法学校入学から150年にあたることを記念し、同校入学から放校処分までの経緯や、共に学んだ同窓たちとの交友について紹介します。

陸羯南(中田実)「登嶽三首之一」
弘前市立郷土文学館蔵
同窓のジャーナリストが、法学校
時代の富士登山を詠んだ漢詩。



原敬「法学校時代断片」原敬文書研究会「大慈会」蔵
原が司法省法学校時代を回想して記したもの。「無風
流観梅記」「司法卿訪問」等、4編からなる。



◆企画展関連講座

演題／原敬と司法省法学校の同窓たち
講師／渡辺美知(原敬記念館学芸員)
日時／令和8年11月14日(土)13:30～15:00
受付／令和8年10月24日(土)10:00～電話にて先着20人
料金／無料

◆ギャラリートーク

日時／①令和8年10月3日(土)13:30～14:15
②令和8年11月14日(土)15:15～16:00
受付／①令和8年9月12日(土)、②10月24日(土)
いずれも10:00～電話にて先着20人
料金／入館料が必要(②のみ同日開催の講座参加者は無料)

(公財)盛岡市文化振興事業団からのお知らせ [他館のご案内]

◎盛岡市先人記念館

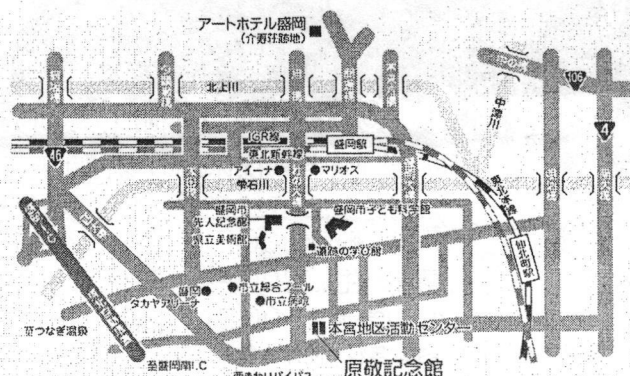
第74回企画展 生誕200年記念「大島高任ー日本近代製鉄の夜明けー」
令和8年9月19日(土)～11月23日(月・祝)

◎石川啄木記念館

啄木生誕140周年 盛岡市・玉山村合併30周年記念
第21回企画展「歌人 石川啄木の世界」
令和8年12月12日(土)～令和9年3月22日(月・祝)

◎盛岡てがみ館

第78回企画展 高村光太郎没後70年「高村光太郎と岩手の人
～手紙にみる交流～」
令和8年10月14日(水)～令和9年2月8日(月)



交通アクセス
[バス] ①「原敬記念館前」下車・盛岡駅発着 盛岡ループ200・矢巾営業所行 本宮線・羽場線
②「もといち東公園前」下車徒歩5分・イオンモール盛岡南線
[タクシー] 盛岡駅より約5分